

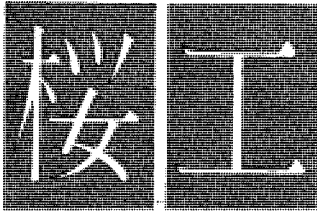
日本大学工科校友会

桜

工

特集■交通工学科の課題

1965 41



日本大学  
 工科校友会誌  
 1965  
 VoL. 10  
 No. 41



日本大学理工学部の交通工学科は、ようやく第1期生を世に送り出した。その43人が尖兵となって、これから伝統をつくり、世の評価を固めていこうとしているところだ。本誌ではこのあたらしい、しかしこれからの世の中できわめて重要な役割を担うこの学科は、なにを望み、なにを望まれているか、どんな問題にぶつかろうとしているかを特集して、この新しい学科の、いまの精神、姿を知ってもらおうと思う。

■特集・交通工学科の課題

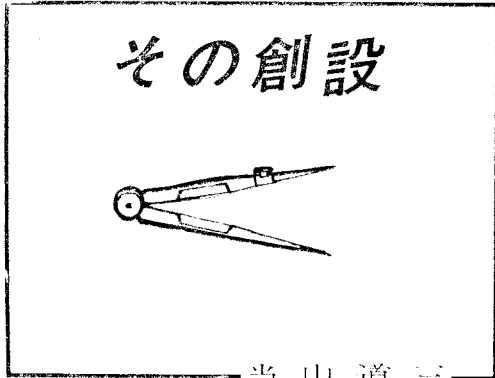
- \*その創設／当山道三… 6
- \*その将来／渡辺寛治… 7
- \*その責務／谷藤正三… 8
- \*期待と注文／森 豊吉… 9
- \*学科内容／浅川美利…13
- \* 都市交通における交通規制  
 ／埴 克郎…15
- \*人間工学の周辺と交通生心理学  
 ／近藤 武…17
- \*早く快適にと望む通勤者  
 特別寄稿 吉江一雄・稲吉守治…22

特集 ばいじん<下>

- 活発な粒子とのたたかい／池森鶴鶴…30
- 病閑の記(下)／亀井幸次郎…36
- 岡井勝美先生をしのいで／三好康雄…40
- 雑記帖 ホップ ステップ ジャンプ・清水潤…43／就職試験に一言・高橋信夫…43

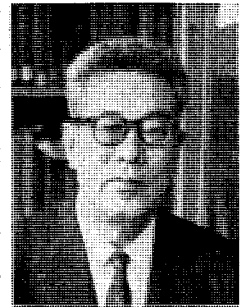
■学友短信 住所など変更…41

グラビア よごれた手袋



— 当 山 道 三 —

1961年7月、理工学部に交通工学科が増設され、本年3月第1回卒業生を世に送った。当時、日本経済の発展にともない電力、鉄鋼などの基幹産業はもちろん、第2次、第3次産業の目覚ましい成長をみた。これらの産業も道路、鉄道、港

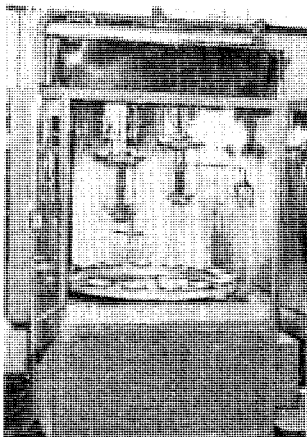


湾などの輸送施設が明治以来の前近代的なものであるため、これが経済発展の隘路となっていた。

経済の発展がその国の社会資本の充実によっていっそう期待されることは申すまでもない。広く社会資本の充実とは、治水治水による国土保全の問題もあろう。また、上・下水あるいは工業用水のごとき水資源もその対象となろう。今日の経済活動は資源、製品の流通機構に左右されている。流通は安全、迅速、多量、低廉であることが必須の条件である。このため、道路なり、鉄道なり、港湾などを各個に考え、単にその構造だけを目的としていては、到底今日の経済活動に対して効果を発揮することができない。陸、海、空の3交通機関の有機的結合が必要である。

従来、土木工学科の中にこれらの内容が盛り込

・表紙は本学交通工学科に設備されているウエザメーターで、1週間に太陽の1年分の紫外線を照射でき、これで有機物質を老化させて、2年とか3年先の物質の姿をみる。下の皿に載せた試料が回転する。





タールによごれた手袋は、交通工学科の学生たちの、学問に取り組む姿の象徴である。この手袋をはめる肉体と頭脳が、あすの日本の交通問題と取り組むだろう。秋だというのに、彼らの額は汗にぬれている。

---

### 桜工第41号

■昭和40年10月25日印刷／30日発行

■編兼発行人／高木政司

■発行／日本大学工科校友会（東京都千代田区神田駿河台1の8／電話東京293—3251内線206／振替・東京162710）

■印刷／本文・鉄鋼新聞社印刷部，  
グラビア・和喜グラビア

■会誌委員／委員長菅原要（建築）  
／土木・下青木秀吉，篠本勝美／建築・安藤三郎，／機械・大内順，青木顕一郎／電気・篠原博，高橋信夫  
／化学・大塚喜作，大内藩／経工・清水潤／薬学・山内盛